キズナエピソード

袖城 セイラ　6話

//ADV形式開始

//夜道

//この時セイラは私服になっていることに注意！

［セイラ］

（……自分に、素直になる。

私は、とびおのこと、どう思っているんだろう？

どうしたいんだろう……？）

［セイラ］

（好き。

……うん。この気持は間違いなんてない。

私はとびおのことが好き）

［セイラ］

（その気持に素直になるってことは、つまり――）

［？？？］

「危ない！」

［セイラ］

「……え？」

［セイラ］

（あ！　赤信号……!?

車がもう近くまで――！）

//暗転

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//背景：黒

落ち込んでいる俺のところに、ここあがやって来た。

そして、セイラが相談してくれたことを俺に教えてくれた。

あの事故のせいでセイラを苦しめている。

俺はどうにかして彼女を救いたくて、

話をしようとセイラを追っていた

//次ページ

//夜道

すぐにでも声をかけたいが、

俺の存在に気付かれたらまた逃げられてしまうかもしれない。

俺は静かにセイラの後をつけていた。

自分の彼女なのに、ストーカーみたいだが

仕方ない……。

//次ページ

だが、どうもセイラは様子がおかしかった。

周りが見えていないのか、妙にフラフラしている――？

そう思っていた次の瞬間、

セイラの身体が赤信号の車道へ、

フラリと飛び出した。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［とびお］

「危ない！」

［とびお］

感じた瞬間、俺の体は走り出していた。

腕を伸ばしてセイラの体を引き寄せ、

抱きしめたまま歩道へと転がり込む。

［セイラ］

「あれ……私……無事？」

［とびお］

「セイラ！　大丈夫か!?

なにやってんだよ!!

ボーっとして……考え事でもしてたのか？」

=========================スチルカットシーン開始=========================

［セイラ］

「とび、お……！」

［とびお］

俺の腕の中で、セイラが涙を溢れさせる。

［セイラ］

「とびお、ごめん……！

私、ごめんなさい……！」

［とびお］

セイラは泣きながら俺にしがみついてきた。

［とびお］

「よしよし　もう怖くないから。

もう大丈夫だ。

だからさ、泣くなよ。な？」

［セイラ］

「違うの。怖いんじゃない……嬉しいの。

とびおがこんなに近くにいてくれることが、

やっぱり私……嬉しいの！」

［セイラ］

「とびお……温かいよ……」

［とびお］

「当たり前だろ。俺が近くにいるんだから。

でも、離れてたら、抱きしめて温かさを伝えることも

出来ないんだからな」

［セイラ］

「うん、うん……。私気づいたの。

とびおが何処かに行っちゃう怖さなんかより、

とびおがそばに居てくれる嬉しさのほうが大きいって」

［セイラ］

「だからとびお……。

どこにも行かないで。ずっと一緒に居て……！」

［とびお］

「当たり前だ」

［とびお］

大きな声で泣き始めたセイラの小さな体を

俺は力強く抱きしめていた。

=========================スチルカットシーン終了=========================

//【R18版の場合、ここに挿入】

//暗転

//都立有羽・校門前

［とびお］

その日、俺は久しぶりにセイラと一緒に登校していた。

もう、俺達は離れないことを誓ったんだ。

その証拠として、2人で手をつなぎながら歩いて行く。

［ここあ］

「おやおや、ひゅーひゅー、熱いねご両人～。

手なんか繋いじゃって……って、恋人繋ぎじゃん！

うわぁ、ラブラブっぷり見せつけてるぅ～」

［セイラ］

「ふふっ、ありがと」

［とびお］

「ヘヘ、でもちょっと照れるな。……あ」

［とびお］

校門の陰のところで、友人が立っていた。

ヤツは俺達に優しい微笑みを向けていた。

［友人］

「……とびお。よかったな、おめでとう。

友人Aの俺は、静かに去るぜ」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//白い部屋

そこで意識が覚醒した。

「……あんな可能性もあったのかもしれない」

俺はひとりごちて、白い壁を眺める。

大きなスクリーンに、セイラとの思い出を幻視する。

//次ページ

過去を思い、悲しそうな笑顔で笑うセイラ。

礼儀正しくて、穏やかに過ごしていくセイラ。。

大切な人を失いたくないと突き放すセイラ。

そして、大切な人と一緒にいたいと決心してくれるセイラ。

……そのどれもが愛しかった。

//次ページ

自然と胸の奥から気持ちが沸き起こってくる。

セイラを守りたい。

俺は心にそう誓った。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//6話END